

<お願い> 被害を受けた田んぼを教えてください

配布/回覧
Fax 送信

山あいの水田でイネクロカメムシの被害が発生しました！

令和 8 年 9 月

福島県県北農林事務所 安達農業普及所

1 イネクロカメムシって、どんな虫？ どんな被害？！

成虫は体長 10mm で艶のない黒色です（写真 1）。

株元に生息し、茎や穂首を吸汁します（写真 2、3）。

被害が著しい水田では、「穂の出すくみ」、「白穂」、「株の枯死」が見られます。（写真 4）



写真 1 イネクロカメムシ成虫

注意！「穂いもち」と違なり、穂茎には吸汁された痕があります



写真 2 株元に生息するカメムシ

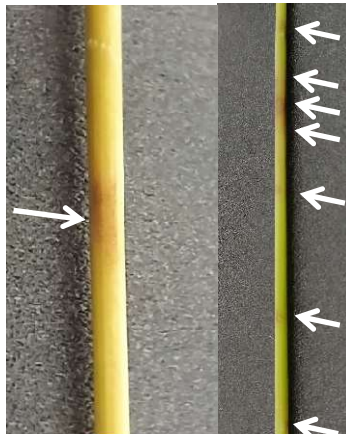


写真 3 吸汁された穂茎



写真 4 出穂期に吸汁されると
出すくみや白穂となる

2 管内の被害状況は？！

管内では、**東和地区、岩代地区、安達地区の山あい**の水田で被害を確認しました。

雑木林やヤブに隣接する中山間地（阿武隈山地）の水田で被害が目立ちます。

奥羽山脈側の水田でも**イネクロカメムシ**を確認したので、被害地域は拡大する可能性があります。

一株に多数の成虫が生息する水田では、**穂が枯れる被害（白穂）**が見られるなど、**減収に至る可能性**があります。

一方、「水田に虫はいるが、被害が小さい」場所もあり、被害の程度には差があります。

※ 斑点米カメムシの防除をしていない（できない）地域で発生が多い傾向です。

3 これからの対策は？！

9 月 10 日時点、イネクロカメムシは**本田に生息し、稲株、特に株元**に多く見られます。

今後、気温低下とともに、9 月下旬頃から周辺の雑木林等に移動して越冬し、来年 6 月頃から再び水田に侵入して、世代交代しながら稲を吸汁し被害を与えます。

今年被害にあった水田とその近隣では、来年もカメムシが侵入する可能性が高いので、畦畔の除草と併せて適期防除（①～③の時期）を行ってください。

- ① **5月上旬中旬頃**、苗移植時の箱処理剤の施用
- ② 越冬した成虫の水田侵入ピーク **6月下旬頃**の薬剤散布
- ③ 卵から孵化した幼虫の発生ピーク **8月上旬頃**の薬剤散布

※ 使用する薬剤は、お近くのＪＡ等にご相談ください。

4 イネクロカメムシが激発した田んぼの稲刈りは？！

地際の刈取りは、株元に生息するイネクロカメムシをコンバインに巻き込まないように、次の点に注意して作業してください。

- (1) 刈取り前にイネクロカメムシの生息状況（発生密度）を確認する。
特に、倒伏した稲の下や白穂が目立つ場所は必ず確認する。
- (2) コンバインの刈刃の位置を高めにする。
- (3) 1ほ場ごとに脱穀部やチャフシーブ（選別網）を掃除し、排塵口のつまりを確認する。
- (4) 倒伏した水田では、作業速度を遅くして虫を巻き込まないようにする。

※ イネクロカメムシは晩秋にかけて越冬地に移動するため、今後水田での生息数は徐々に減少する見込みですが、生息数が多い水田では、稲刈り前に生息状況をよく確認してください。

5 刈取り後のひこばえにイネクロカメムシがいた場合は？！

気温が高い日が続いた場合、稲刈り後もしばらく株元に生息している可能性があります。

カメムシが株元にいるうちに耕耘すれば、越冬成虫を減らせますので、来年の被害低減が期待できます。カメムシが株元にいなくなってから耕耘しても、生息密度を下げる効果は期待できません。

※ 耕耘する場合には、被害が甚大な水田を優先してください。

イネクロカメムシ被害のご連絡やご相談・お問い合わせは・・・

○このチラシに関するお問い合わせ

福島県県北農林事務所 安達農業普及所（作物担当）

電話 0243-22-1127（平日 8：30-17：00）

○水田のイネクロカメムシ被害や農薬などのご相談

お近くのＪＡ（二本松、岩代、本宮営農センター） 営農指導員

○水田のイネクロカメムシ被害についてのご連絡・ご相談

NOSAI 福島、二本松市（本庁農業振興課、安達支所・東和支所・岩代支所の産業振興課）、本宮市農政課、大玉村産業課 各担当者